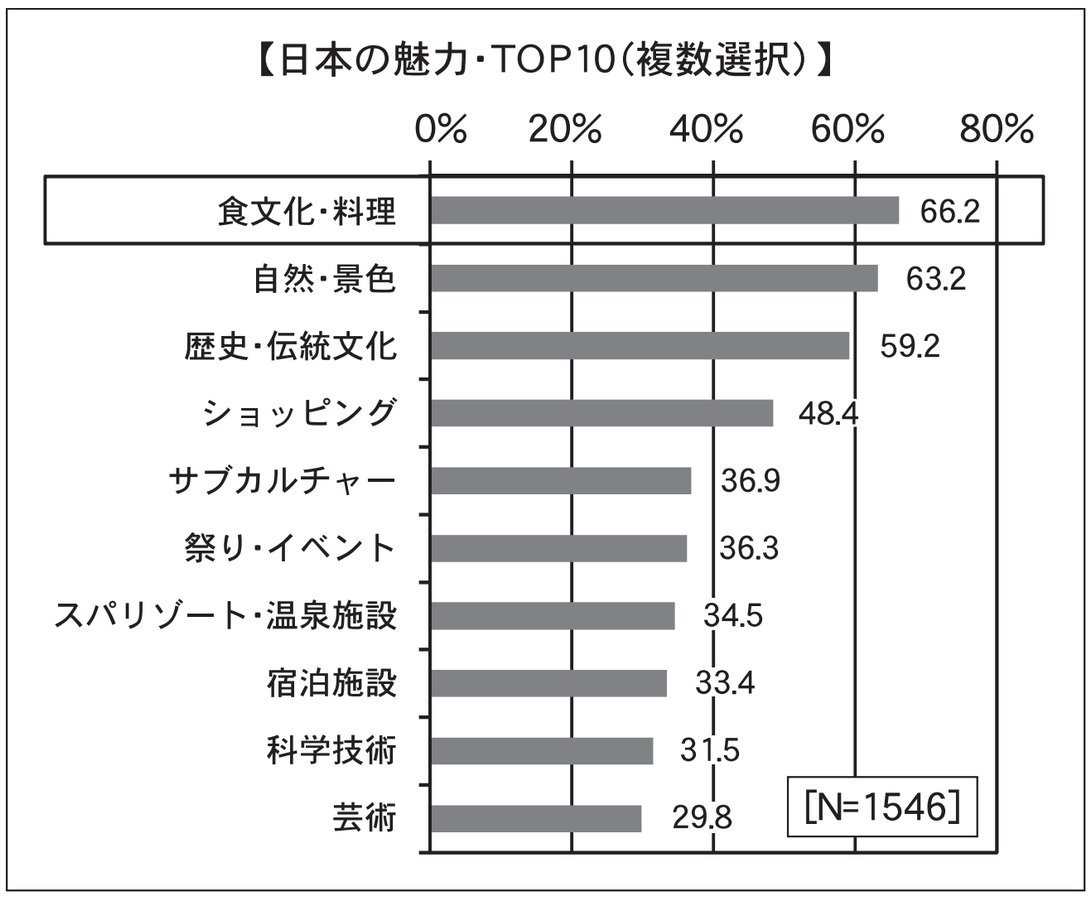
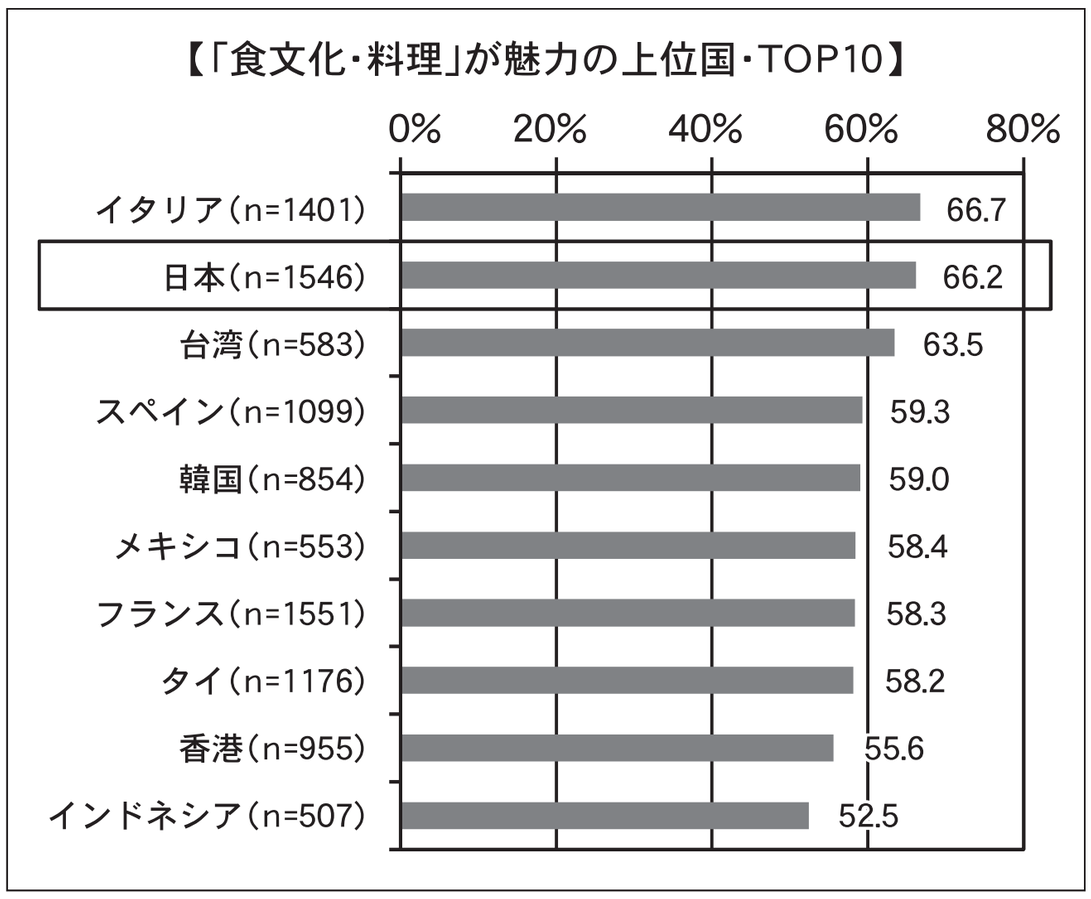
日本能率協会総合研究所「世界20ヵ国・地域インバウンド調査」

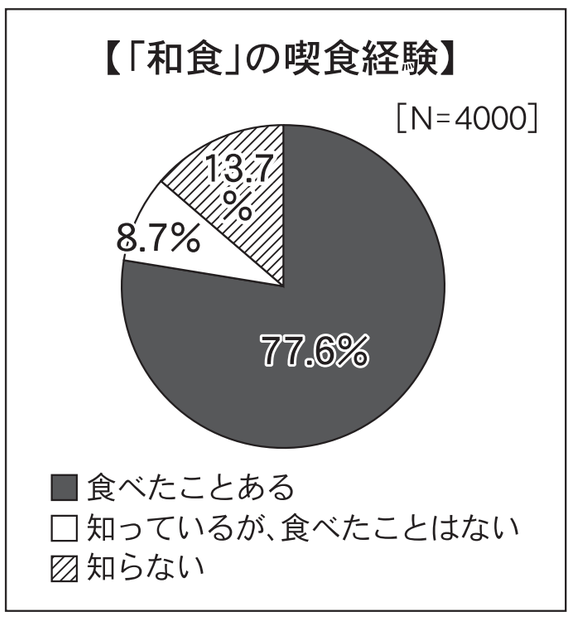
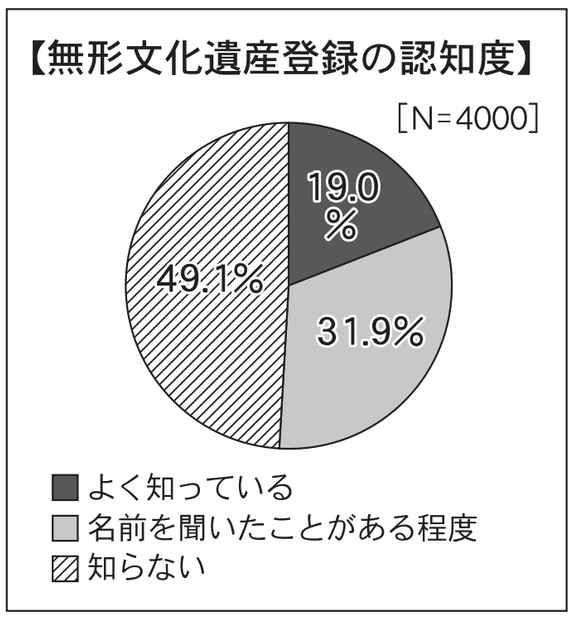
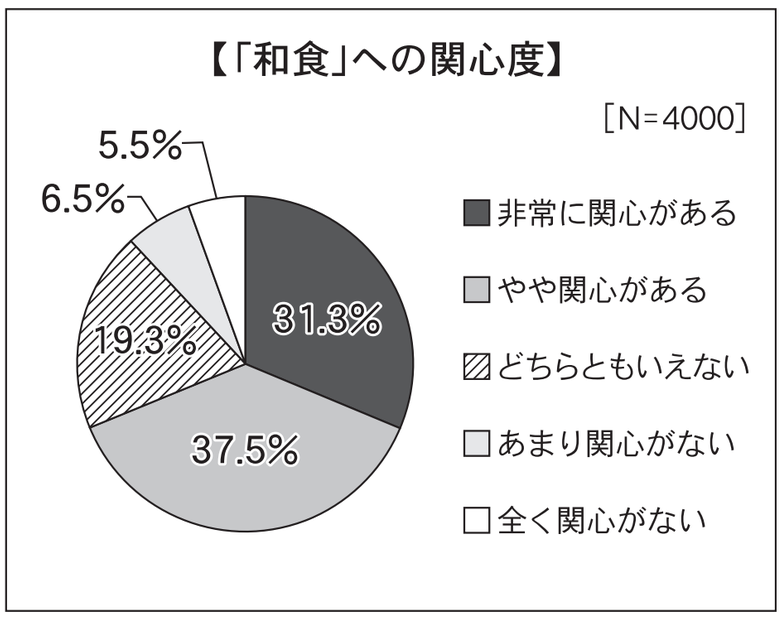
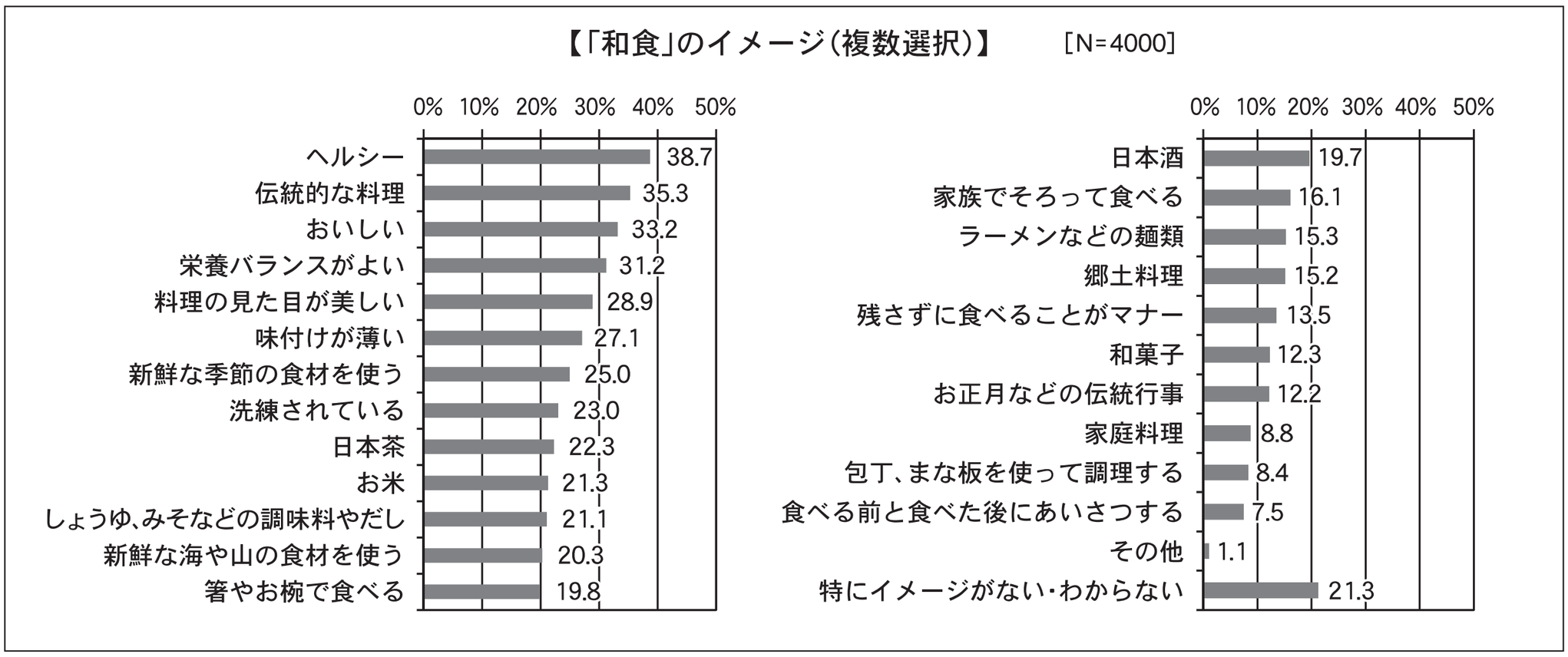




調査データ

和食の魅力 海外に浸透

外国人の訪日旅行動機で最も上位

日本能率協会総合研究所（東京都港区）は10月2日、「世界20カ国・地域インバウンド調査」の結果をまとめ、公表した。訪日動機が最も上位だったのは「食文化・料理」で回答者の7割近くに達し、和食の魅力が海外に浸透していることが裏付けられた。

調査は、20カ国・地域に住み、3年以内に宿泊を伴う海外旅行に行った人、または今後3年以内に行きたい人4千人（200人×20カ国・地域）を対象に4月17日から5月18日まで、インターネットで実施した。